
ありがとう

クローバー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ありがとう

【Zコード】

N1931M

【作者名】

クローバー

【あらすじ】

新一は、車の不注意で死の境目にいた。
蘭は、付きつきりで、新一のそばにいた。新一は、目を覚ますが、
新一は、死んでしまいます。「新一は、死なないでほしい、、、」と思
う人は、スルーしてください。

最後の言葉（前書き）

この小説は、新一の「両親、クラスメイト、服部平次などは、出てきておりません。新一、蘭だけが出てきます。
あらかじめ、ご理解ください。

タイトルと、小説を少し直してしまいました。
すみません、・・・、
`。

最後の言葉

新一は、車の不注意によつて、死の境目にいた。

「新一、新一、新一、新一、お願い目を覚ましてよ、よ、よ。」

蘭は、泣きながら新一のことを呼び続けていた。

そして、一日後、蘭は、寝ていると誰かに触られたような気がした。

蘭は、そつと目を開けてみると、新一だった。

「し、新一、いま、お医者さん呼ぶね。」

蘭は、涙を溜めながら行こうとしたが、新一が手を引っ張った。とても弱い力で、蘭が驚いていると、新一は静かにわずかだが、横に振った。

「ど、どうして、だ、大丈夫なんじょ、元気になるんでしょ、よ。」

蘭が、消えそうな声で言つと、新一は、目をつぶつたまま言つた。

「あ、俺はもうだめだ、よ。」

「ば、ばか、何言つてゐのよ、ひ、こんなのは、新一じゃないじゃない。」

蘭は、さつきから溜めていた涙を、一気に流した。新一は、目を開けると蘭を見た。新一は、蘭を見つめながら、弱い声で言った。『、その瞳は、穏やかだった。

「蘭に、、頼みた、、いこどが、、ある。、父さんと、、か、、母さんと、、あ、、ありがとう、、と、、伝えてくれ、、。、ら、、蘭に、、言いたいこどが、、あるんだ、、。、、蘭の、、ことが、、ずっと前から、、す、、好きだった、、。、

「私も、、ずっと、、好きだった、、。、」

蘭は、泣きながらも答えた。、、新一は、蘭を愛しそうな瞳で見た後、にっこりと微笑むと、優しく言つた。

「う、蘭、お、俺がいなくなつても、、し、、幸せになれよ、。、だ、、大丈夫だ、、お、、俺が、、ずっと、、み、、見守つて、、い、、いるから。、、蘭、、、元氣、、でな、、あ、、愛してる、、。、」

新一は、一筋の涙を流した後、ゆっくりと瞳を閉じていった。

「し、、新一、、。起きてよ、、何か言つてよ、、ねえ、、新一、、。新一――――――。」

蘭は、涙が枯れるまで泣いた。

けれど、聞こえてくるのは、一定の機会音だけ。あの優しい声は、聞こえてこないのだった。

「愛してる、、。」この言葉が、新一から蘭への最後の言葉だつ

た、
、
、
、
。

最後の言葉（後書き）

蘭ちゃんが、かわいそうになりました。「自分で、書いたのだけれど、・・・。」

新一君、なんかごめんなさい、、「まあ、、、いろいろと、ね。」

ぜひ感想などもよろしくお願ひします。

青い花（前書き）

前回の続きをです。

タイトルとは、少し違ひと思こますが、あらかじめ「理解下せ」。

青い花

、 、 、 新一がいなくなつてから、早々五日がたつた。

蘭は、新一が事故にあつた場所へ行つた。そしたら、青い花が一輪咲いていた。その青い花は、新一の瞳の色と同じだったので、持ち帰ることにした。家に帰つてから、植木鉢に植えてた。植木鉢には、「新一」と、書いた。

、 、 それから、一週間たつた。不思議なことに、青い花は枯れなく、しおれなかつた。

あれから、一年後。蘭は、新井で先生と結婚式を挙げた。蘭は、とても幸せそうに笑っていた。そんな蘭を、青い花は風に揺れながら、見ていた。 、 少し寂しい面影も、漂つていた。

三日後、ずっと枯れなかつた青い花は、突然枯れてしまつた。蘭は、どうしてか悩んでいると、 、 新一の声がした。

「蘭、おめでとう。幸せにな、 、 。これでもう、俺の役目は終わりだな、 、 。元気でな、 、 蘭。」

蘭は、慌てて周りを見渡しても、どこにも誰もいなかつた。蘭は、ふつと、新一の最後のときに言つた、ある一言を思い出していた。

「俺が、ずっと見守つてやるから」

蘭は、何故か涙が溢れた。そして、「新一」と書かれた植木鉢を、ギュッと抱いた。 、 感謝の気持ちを込めて、 、 。蘭は、枯れてし

まつた、青い花を見た後空を見上げて、小さな声でつぶやいた。

「ありがとう。私だけの、小さなナイトさん、、、、。大好きだ
ったよ、、。」

そつづぶやくと、突然強い風が吹き、花びらが数枚空にまつていつ
た。蘭は、それを見て微笑むと静かに言った。

「ありがとう、。忘れないよ。」と、、、

蘭は、その日一番の笑顔を向けた。、、、二年前の時も、ずっとず
つと好きだった、今はいない愛する人に向かつて、、、、。

その日は、いつまでも青空が広がっていた――――。

END

青い花（後書き）

ここまで読んでくださり、ありがとうございます。

初めての連載だったので、文章が変だったと思いますが、ご理解下さい。

良かったら、感想を下さい。

これからも、よろしくお願ひします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1931m/>

ありがとう

2010年10月28日04時57分発行